

<p>学校教育ビジョン 1 学校教育目標 自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成 2 信頼される学校をめざして ～「行きたい、行かせたい、行ってみたい学校」へ～ ①今、求められている学力を育む学校 ②子ども一人一人の心身を育成する学校 ③保護者・地域との連携を深める学校 ④望ましい教職員集団の学校</p>	<p>3 本年度の重点事項 何事にも主体的に取り組み、感謝の心をもって人と接することで、友と共に自分の成長を実感しながら、知・徳・体のバランスのとれた豊かな体験ができる学校づくりを推進する。 ①確かな学力の向上 ②子ども一人一人の心身の育成 ③開かれた学校・信頼される学校 ③組織的で機動的な教職員集団</p>
---	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人に基礎的基本的な知識と技能の習得を図り、自分の言葉で自分の考えを表現する力を育成する。	書く活動を各教科の授業に意図的に取り入れ、目的や条件に合わせて書くことができる児童を育成する。	教務主任	「書く」力は個人差が見られ、目的や条件に合った文章を書くことや推敲する力を育てる必要がある。	【成果指標】 各教科やほげみの時間の課題やふり返りで等々、考えや意見を相手に伝えるように、条件に沿って文章に表すことができる。	各教科において目的や条件に合わせて書く活動を通じて児童が書く力がついたらと教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
	国語科を中心として、学び合いの質の向上を図りながら、児童一人一人の確かな言葉の力を育成する。	目指す学び合いの姿を明確にし、児童が主体的・協働的に課題を解決していく授業づくりの視点で授業研究を行う。	研究主任	児童の学び合おうとする姿は育ってきているが、学び合いの質という点では課題も多く、教師の関わり方や振り返りについても研究を深める必要がある。	【成果指標】 国語科を中心に、学び合いの質を向上させる。	国語科を中心として、学び合いの質が向上してきたと感じる教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いの習慣化を図ること、よりよい人間関係を育成する。	児童会のあいさつ運動、児童会集会、たてわり活動、地域学習、運動会等の行事で意識を高め、挨拶をすることの良さを実感させる。	生徒指導主事	教員、保護者からの呼びかけだけでなく、児童が主体となって呼びかける取組を行ったが、一部の児童は声が小さい。	【成果指標】 場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いを行うことができる。	自分から進んで気持ちのよいあいさつができた児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。			
	全教職員の同僚性を高め児童理解を共有するとともに、生徒指導の3機能を生かした授業作りを取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	月に1度の児童理解の会、学校生活アンケートやU-アンケート、児童との面談などを通じて児童の実態把握を図る。生徒指導の3機能を生かした授業づくりの実践を進める。	生徒指導主事	友だち同士の小さなトラブルが起こることがある。少人数であるため、人間関係が固定する傾向がある。全職員で全校児童に目を配り、変化を見逃さないようにしている。	【努力指標】 児童理解に努め、適切な情報共有をし、生徒指導の3機能を意識した授業実践を行う。	児童理解に努め、適切な情報共有をし、生徒指導の3機能を意識した授業実践を行った教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。			
③進路指導・キャリア教育	自分のよさを認め、夢や希望をもって努力し、意欲を持って学び続ける児童を育成する。	自分の周りにいる人々に積極的に関わることで、自他の良さを認め合い、ともに高め合おうとする態度を育成する。	キャリア担当	明るく素直で仲が良いがお互いに切磋琢磨し、高め合うことや粘り強さを育成する必要がある。	【努力指標】 目標に向かって取り組むことができる。	学習や行事等において、児童が目標に向かって活動していると評価する教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
④保健管理	児童の発達段階に応じた、バランスの良い体力の向上を目指す。	器械運動領域だけでなく毎時間の導入でコーディネーション運動を取り入れた体育科の授業を実践する。	体育担当	全体的な体力は向上してきているが、個人差が大きく、体力バランスが悪い児童も多い。	【成果指標】 秋の体力テストにおいて、40項目中30項目以上で春の県平均記録を突破する。	秋の体力テストにおいて、各体力要素40項目中、春の県平均記録を突破した項目が、 A 30項目以上 B 25項目以上 C 20項目以上 D 20項目未満	春と秋に体力テストを実施し、体力分析を行う。			
	歯と口の健康管理への意識を高く持ち、予防行動ができる児童を育成する。	専門職と連携した保健教育の実施や、歯みがき強化週間を設け、歯と口の健康意識向上に向けた指導の充実を図る。	養護教諭	高学年になるにつれ、給食後の歯みがきの意識が薄れてきている。歯科検診結果から、多数のむし歯や初期むし歯を持つ児童がみられる。	【成果指標】 毎食後、時間をかけて歯をみがくことができる。	毎食後、時間をかけて歯をみがくことができる児童の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。			
⑤安全管理	危機管理意識を高め、防災教育・の充実を図り、事故や災害の際に的確な行動をとることができるようにする。	事故や想定外の事態に備え、危機管理マニュアルに沿った方法で訓練や研修を実施する。	教頭	児童は教師の指示の元、迅速な行動をとることができるようになっていく。教職員は、危機管理マニュアル等の把握が十分ではない。	【成果指標】 さまざまな非常事態の際に、危機管理マニュアルに則って職員が行動できるようになる。	さまざまな非常事態の際に、危機管理マニュアルに則って行動することができたと答えた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑥特別支援教育	気になる児童への校内支援体制の定着と継続を図り、児童の特性理解を深め、個に応じた支援を組織的に行う。	個に応じた支援を行うために、児童理解の会や特別支援全体会等を活用し、合理的配慮の理解と児童の支援の工夫を共有し組織的に実践する。	特別支援教育コーディネーター	全教職員で児童の特性を共通理解し、児童の指導に当たっている。指導法の工夫やスキルを共有し、一人一人の特性に適した支援を継続的に行う必要がある。	【努力指標】 個に応じた合理的配慮の理解や支援の工夫を共有する機会を持ち、児童への支援に活かすことができる。	職員間で共有した指導法の工夫やスキルを活かして個に応じた支援に努めた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑦組織運営・業務改善	職員が担当業務に専念する時間を確保し、協力して業務に当たることを通じて、学校全体の教育力を高める。	退勤目標時刻を設定し、会議・打合せ等の業務を効率化し、教職員がシェア意識を持って業務にあたることで、働きやすい職場作りを進める。	教頭	会議や打合せが勤務時間をオーバーすることがある。また、家庭に多くの仕事を持ち帰ったり、休日に出勤したりしている職員がいる。	【努力指標】 退勤目標時刻を意識し、業務を効率化するよう工夫し、シェア意識を持って協力する。	退勤目標時刻を意識し、業務を効率化するよう工夫し、シェア意識を持って協力することができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑧研修	全職員が前向きに研修に取り組み、研修の成果を共有し、共通実践につなげる。	各種研修会・研究発表会・書籍等で得られた情報を、研修した職員が報告する時間を確保し、共有する。	教頭	日常的に研修報告が行われ共有することができた。新学習指導要領実施にあたり、必要な情報を職員が共有し、実践していかなければならない。	【努力指標】 研修会等で得られた情報を共有し、実践に生かす。	研修会等で得られた情報を共有し、実践に生かすことができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑨保護者、地域との連携	授業や行事等に保護者や地域の方に積極的に入ってもらい、指導効果を高める。	総合、生活、社会、道徳、特活などの時間に地域人材を活用し、入念な打合せを行い効果的な指導を進める。	教頭	地域人材一覧を活用し、どのクラスも数多くの授業で地域の方を招いて授業を行った。	【努力指標】 計画的に地域人材を招き、授業等で効果的に活用する。	地域人材を計画的・効果的に活用して授業等を行うことができた学級が、 A 4学級 B 3学級 C 2学級 D 1学級以下	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備に努め、安全安心な学習環境の充実を図る。	月に1回の安全点検を実施して、校地全体の環境整備については、育友会・教育後援会・同窓会などと連携して整備にあっている。	教頭	計画的な安全点検を実施している。校地全体の環境整備については、育友会・教育後援会・同窓会などと連携して整備にあっている。	【努力指標】 安全点検を徹底し、不備な点は早急に対策を行い、安全で効果的な校舎内外の環境整備に努める。	安全で効果的な学習環境の整備に努めることができたと感じる教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			
⑪人権教育	お互いのよさや違いを認め合い、よりよい人間関係を築くことを目指す。	すべての教育活動において、自分の周りにいる人々に積極的に関わり、自他の良さを認め合おうとする態度を育成する。	人権担当	すべての教育活動において、人権的ねらいを加味して指導を行っているが、さらに十分に意識できるようにする。	【努力指標】 人権意識を高く持って指導を行うことができるように努める。	人権意識を高く持って指導を行うことができた教職員の割合が、 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。			

学校関係者評価	
---------	--